

X005

- T: えーと、【I (フルネーム)】くん、ていうふうに、き、お聞きしてませんが、よ、いいですか？
【I (姓)】くんがいいですか？
- I: はい、大丈夫です。
- T: はい。
【I】くんは、今は、もう、この学校の卒業生なんですよ？
- I: はい、今、もう、来てませんね。
- T: はい？
今、来て…
- I: 今は、もう、来てない。
- T: 今は、何をしてるんですか？
- I: 今は高校に行ってまして〈はい〉、で、大学も決まって〈はい〉、もう、ほとんど、なんもしてないです{笑}。
- T: なんもしてない。
あ、じゃ、おめでとうございます、大学。
- I: あ、ありがとうございます。
- T: えーと、どちらのって聞いても大丈夫ですか？
どこの大学で…
- I: あ、【地名1】のほうの【学校名】大学っていう。
- T: はい。
何を勉強するんですか？
何を専攻？
- I: えっと、国際文化について勉強する。
- T: ふーん。
入学試験は大変でした？
- I: あー、そちらのほうは、あの、なんて言うんでしょう、推薦のほうだったんで〈はい〉、面接という形だけだったんです。
- T: ふーん。
練習しました？
- I: はい{笑}、かなりしました{笑}。
- T: かなりしました〈はい〉。
えーと、どのへんで受かったと思いますか？
どのあたりでアピールできた？
- I: えっと、うーん、ちょっと、難しいですね。
たぶんブラジル人ということで、日本語とポルトガル語がどちらも話せるということで、いけたと思いましたね。
- T: あー、えーと、日本語は普通には、つ、えーと、学校ですずっと使ってきたってことですか？
- I: はい。
- T: か、おうちでは何をつか？…
- I: おうちでは、ポルトガル語が〈あー〉基本ですね。
- T: 今は、どっちが楽ですか？
- I: 今は、日本語が楽になりましたね。
- T: あー。
いつごろから？
- I: えっとー、小学校4年生ぐらいからですね。
- T: から、日本語のほうが、もう、楽になったんですか？
- I: はい。
- T: ふーん。
でー、じゃ、えーと、両親、ご両親はポルトガル語で、普通、生活していらっしゃるんですよ？
- I: はい。
- T: じゃ、みんなの手伝いっていうか、助けをしたりしていて…
- I: 通訳は、もう〈通訳〉、日常茶飯事です。

X005

- T: はー。
むず、今まで難しいと思ったことありますか？。
- I: {ブレス} かなり難しいです。
- T: どんな場面で、そういうふうにする？。
- I: えっと、に、今まで、ポルトガル語で分かった言葉が、どんどん分からなくなってきた(あー)、どんどん出た、出なくなって(あー)、それからもう、そこらへんが、はい。
- T: えーと、特にこういう場面で難しいとかいうのが、ありますか？。
- I: えっと、専門的用語がぜんぜん分からないんで(ふーん)、役場とかに行っても(はい)、ちょっと、訳せない場面もありました(はい)。
- T: そういうときは、どうするんですか？。
- I: そういうときは、具体的に説明をするんですよ。
あの、こういうものだよ、みたいな(ふーん)。
で、親のほうもそれが分かって、やっとこできたみたいな感じ。
- T: ふーん。
じゃ、なんか、ポルトガル語の力を伸ばすために、なにかやっていることがありますか？。
- I: できるだけ、家でポルトガル語をしゃべるようにしていますね。
- T: ふーん。
それ以外は？。
- I: それ以外は、最近はしてないです。
- T: ふーん。
なんか、やっぱ、今、専門用語が分からないとかいう話が出てたので(はい)、なんかできることがあるかなと思ったんですけど。
- I: あー、あとパソコンで(はい) いろいろサイトが、なんか、訳すサイトがあるんで(はい)、それで調べたりしていますね。
- T: あ、その、必要になったときということですか？。
- I: はい。
- T: ふーん。
えっと、ブラジルには行ったことが、あ、どこで生まれたんですか？。
- I: ブラジルで生まれました。
- T: ブラジルで。
いく、何歳ぐらいで？。
- I: 6歳ぐらいでこっちに来ました(はい)。
で、1回、小学校5年生のときに(はい) 1回帰りまして(ええ、ええ)、それ以来行ってないですね。
- T: えーと、その、小学校5年生のときのブラジル滞在は、どのくらいだったんですか？。
- I: えっと、1か月半ぐらいですよ、はい。
- T: 1か月半ぐらい、ふん。
じゃ、もう、向こうに友だちとかはいますか？。
- I: はい、いますね。
- T: ふん。
どこで、あの、昔からの友だちですか？。
- I: はい、あの、幼稚園のころからの友だち、いますね。
- T: はー。
が、えーと、早く帰国してってことですか？。
- あ、もう、あまり、幼稚園のとき友だちだった人が、帰国しちゃって…
- I: あ、幼稚園はあっちだったので(はい)、あっちからずっと友だちっていう意味。
- T: あ、そ、そうでした(笑)。
ごめんなさい、はい。
そういう人たちとは、じゃ、ブラジル、ポルトガル語で？。
- I: はい。
- T: メールのやりとりとかは…

X005

- I : パソコンで〈はい〉チャットを。
- T : あ, チャットを。
- I : はい, 少し。
- T : はい。
えー, でも, ま, 日本語のほうが楽という〈す, はい〉ことですね。
- I : かなり楽です。
- T : はい。
えー, じゃ, 大学生活に向かっては, 特に不安とかはないですか？。
- I : 不安は, 不安は朝起きれるかどうか, ちょっと {笑}。
- T : {笑}, と, お, 家から, かよえるんですか？。
- I : はい〈あー〉, 電車で。
- T : 電車どのくらいかかりますか？。
- I : 電車だと1時間くらいかかりますね。
- T : ふーん。
えーと将来は, なんになりたいという。
- I : 将来は, 通訳者か〈うーん〉, なんか, そこらへんですかね。
国際的な仕事に就きたいですね。
- T : うーん。
えーと, 通訳ってのは, どのような場面の通訳を？。
- I : えっと, 会社同士とか〈ふーん〉, あと, 日本の会社と, ほかの国の会社という通訳をしたいですね。
- T : えー, 通訳をする人にとって, どんなことが大切だと思いますか？。
- I : やっぱり他国の文化を知ることが, 一番重要だと思いますね。
- T : うーん, 他国の文化を知る〈はい〉。
ということは, その資質はあるというふうに。
- I : {ブレス}, うーん, あるとは思いますがね。
- T : うーん〈はい〉。
ただ, ま, 通訳っていうのはいろんな場面, 経済面だったりとか, 普通の文化面, さまざまあると思うんですけど, えー, どのような方面に興味がありますか？。
- I : 自分は経済面ですかね〈ふーん〉。
興味があるんで。
- T : うん, ただ, いまの専攻は国際…
- I : 国際社会です。
- T : 国際社会〈はい〉。
で, その中でそういう, より詳しい専攻みたいなのがあるんですか？。
- I : あー, たぶん。
わかんない〈ふーん〉。
たぶん, あるとは思いますが。
- T : ふん, えーと, たぶん, あの, 日本語とポルトガル語の両方が, こう, 話せる〈はい〉っていう人は, 結構いるのかなと思うんですが〈はい〉, そんなかでより専門的な知識がないと, 勝ち残っていけないんじゃないかと思うんですが, そのあたりはどうでしょうか？。
- I : 自分は思いますね〈うーん〉。
ちょっと, そのために大学に入ったんで〈うん〉, 入るんで〈はい〉, ちょっと, 伸ばしたいなと思うんですね。
- T : え, それがそのさっき言った, 経済面っていうことですかね？。
- I : はい。
- T : ふーん, その, そのへん, その経済面の専門的な知識は, 何をやったら身についていくでしょう？。
- I : {ブレス}, 経済面知識, うーん, 経済学を勉強したいですね。
- T : えーと, 大学の専攻とは別に, ということですか？。
- I : はい。
- T : ふーん。

X005

えーと、ただ、日本の大学生ってほとんど、こう、遊んでいたりとか〈はい {笑}〉、興味がいろいろ違うようなんですけど〈はい〉、えー、【I】くんは、大学生活はどのように送ろうと思ってますか？。

I : えっと、勉強しながらバイトもしたいですし〈うん〉、あと、英会話にも行きたいと思ってますし〈うん〉、と、さきほど言った経済的なものにも、いろいろ興味を持ってるんで、たぶん忙しい生活にはなると思うんですけども〈うん〉、あまり遊ばないで {笑} 〈笑〉 暮らしたいです。

T : ふん、そう {笑}。

一番興味のあることは何ですか、今？。

I : 今は洋楽が、一番興味がありますね。

T : あー、洋楽っていうのでいう音楽は、どんな音楽ですか？。

I : えと、ロック、ロックとか〈はい〉、メタル〈ほー〉音楽が〈はい〉、今は没頭してます。

T : あ、そうなんですか。

き、聴く、自分でも弾くんですか？。

*…

I : あ、自分でもベースを、ベースギターを〈は〉弾いてて〈はい〉、それを、その音楽をいろいろ聴きながら自分でも弾いてみたいです。

T : えーと、グループを組んで演奏してますか？。

I : いや、まだですね〈あー〉。

ちょっと練習してからのほうが、いいんで、練習して〈はい〉友だちと組むという…

T : えっと、はい、そのと、その、えっと、演奏は、その、この地域の友だちと一緒に、もしするとしたら？。

I : はい。

する、たぶんそうですね。

T : ふーん。

【I】くんにとって音楽は、どんな位置づけなんですか？。

自分にとって、どういう意味を持ってる？。

I : 音楽は、最近はなくてはならないもので〈ふーん〉、毎日聴いてますね。

T : ふーん。

で、勉強とアルバイトと英語と音楽と、ですか、大学生活？。

I : はい {笑}、そうなりますね。

T : はい、で、その、ま、アルバイトって言ったんですけども、そのアルバイトは何のために？。

I : 大学の資金を〈ふーん〉。

たぶん親だけではたぶん払っていけないので〈はい〉、自分でも、ちょっとは助けたいなと思って〈うん〉。

T : 学費のためってことですね？。

I : はい。

T : えーと、よく、あの、自立っていう言葉で、経済的自立とか〈はい〉精神的な自立とか、よく言われますけれども、【I】くんは、自立とはどういうことだと思いますか？。

I : 自立とは、、、親に頼らない〈うん〉、自分だけで生活していく〈ふーん〉、うーん、、、。

T : か、【I】くんはどの時点で、それができると思いますか？。

もしくは、今、やってると思いますか？。

I : 今は、やってないと思いますね〈はい〉。

たぶん一人暮らしをし始めたら、そこで自立だと思いますね〈ふーん〉。

自炊したりとか〈うんうん〉、自分で洗濯したりとか〈うんうん〉、そういうのが、あ、あって、初めて自立だと思いますね。

T : え、じゃ、家を出たら自立ができるということですか？。

I : はい、そうです。

T : それまでは、自立ではない？。

I : はい。

T : ふーん。

そうすると、あの、自立をしてないで家にいるときは、えーと、いろんなことを決めていくときに、どこまで、あの、自分で決め、どこまで親に相談をしなければいけないと？。

I : うーん、親は、、、うーん、、、難しいですね。

X005

- T: 例えば、しん、今回の進学なんかのときは、親に相談しますか？
- I: いや、自分で決めましたね〈ふーん〉。
親とは、お金の面だけで、はい、相談しまして〈うん〉。
あとは自分で決めましたね。
- T: うん。
さっき、あの、自立の話をしたときに、家を出て洗濯をするとか、食事をとかいう話が出てましたけれど〈はい〉、経済、お金の面だけじゃなくて、やっぱ、そういう、身の回りのことをするっていうのは、とても大きな要素？
- I: はい〈ふーん〉、と思いますね。
- T: そうすると、あの、結構、日本の、とし、ま、40代50代ぐらいの男性で、家事はいつさいできないっていう男性は、自立してないっていうふうに考えられますか？
- I: 僕は、そういうふうに考えますね〈はー〉。
ほかの人がいないと、なにもできない人だと思いますし〈うんうん〉。
奥さんだけにやらせることは、良くないと思いますね。
- T: ふーん。
そうすると、その、じゃ、えーと、例えば、結婚して、夫婦が暮らしていて、かたっぽが外で働いて時間がなくて、そういうことをやってもらうっていうのを考え方、あの、そういう役割分担なんかはどうなんでしょう？
- I: うーん、それはたぶん自立してると思いますね〈ふーん〉。
時間がないっていうのは、まー、しょうがないことですし〈ふーん〉、仕事ですんで。
でも、週末には、手伝えるようには、し、しておや、きたいなという。
- T: というふうに、思っているということですね？
- I: はい。
- T: はい。
えーと、いま音楽に没頭してるっていう話でしたけど〈はい〉、えーと、一番好きな音楽、おすすめの音楽には〈おすす…〉わたし全然わからないんですけど、メタルロックとか。
メタルロック…
- I: おすすめは〈はい〉、んーと、【グループ名】という〈はい〉、なんか、メタルバンドですけど。
- T: どういうところが、いいんですか？
魅力を教えてください。
- I: 魅力はギターのアンプの音と〈はい〉、ベースの音がマッチしてて〈うん〉、そこにドラムも入って〈はい〉、し、非常にいいんですよ {笑} <{笑}>。
ちょ、説明しづらいんで。
- T: はい。
えーと、その、そういう音楽の良さっていうのは、あの、同世代だけじゃなくて違う世代にも結構理解されてますか？
例えば、お父さんお母さん、その音楽をやってること〈うーん〉、理解してくれてますか？
- I: メタルは同世代ではあんまりいないんで〈あー〉、はい。
たぶん30代ぐらいの人なら、結構わかると思うんですよ。
- T: うんうん。
それに入っていったきっかけは、なんですか？
- I: それに入ったきっかけは〈はい〉、うーんと、いとこ〈はい〉が聴いてて、聴いてて、それを聴いたのが、きっかけでしたね〈ふーん〉、はい。
で、なんて、いい音楽なんだみたいな感じになって〈はい〉、聴き始めたら、もう、そこから止まらなくなりましたね。
- T: はい。
それで、もう、その、時間、それに没頭してるってことですね？
- I: はい。
- T: え、もう何年ぐらいになるんですか、それは？
- I: もう、4年ぐらいですかね。

X005

- T: あー, そうなんですか。
- I: はい。
- T: ほかに, なんか趣味がありますか？
- I: ほかに, え..., 最近, 特に無いですかね (ふーん)。
音楽聴いて, あ, パソコン (うん) を, いじってます。
- T: ふーん, やっぱり***に多いですね (はい)。
えーと, 【I】くんは, さっき, その, 例えばブラジル, いや, ポルトガル語と日本語ができるっていうこと (はい), あの, そこに進んだっていう話がありましたけど, そういうときに, えー, ブラジルのさまざまな文化, 例えばサンバだったりとか (はい), そういうものに対しては, どういうふうに考えてますか？
- I: ブラジルの文化ですか？
- T: は [わ], 自分の中のもの, それとも自分の外にあるもの？
- I: 自分の中にあると思いますね (はい)。
ちょっと, 家のほうにも, まだ, ぶん, ブラジルの文化がありますし (はい)。
日本の文化も少しずつ取り入れながら (はい), ブラジルの文化もありますし。
- T: ふーん, てことは, あの, ブラジルで, なんか, の, 行事があるときとかは, 自分の家でも, そういうものを (はい) やったりするということですか？
- I: やりますね。
- T: ふーん。
じゃ, お正月は, どういうふうに過ごしてたんですか？
日本のお正月は？
- I: お正月は (はい), いや, ブラジルのお正月ふうでしたね (あー)。
友人を呼んで (はい), で, なんか, レンチリヤっていうスープ...
- T: え？
- I: レンチリヤっていうスープを飲んで (はい), 願い事をするんですけど, そちらのほう。
- T: えーと, 料理できますか？
- I: 料理は...
- T: いまレンチリヤっていう, その, スープの話が出たので。
- I: 料理は, あんまりしてないですけども (はい), 親がいないときには作りますね。
- T: おー。
どんなものを作るか教えてください。
- I: えと, カレーでしたりとか (はい), あとは...
- T: ブラジル風のもの, ないんですか？
- I: ブラジル風のもの, フェイジョンというお豆料理。
- T: どうやって作るんですか？
- I: えっと, その, 豆を (はい) 水に浸して (はい), で, そこに調味料を加えて (はい), 煮込むんですけど (はい), それをご飯にかけるという。
- T: ほう, ご飯にかけて食べるんですか？
- I: はい。
- T: ブラジルで, ご飯にそれをかけて食べる。
- I: はい。
- T: ふーん。
それは日本でもそういうふうにして食べる。
- I: でも, ブラジルのご飯はタイ米なんで (はい), ちょっと味が変わりますね (はい), 日本と。
- T: そうすると, 日本のお米だと, ちょっと粘りがあっておいしくないんじゃないですか, それ, その料理だと？
- I: うーん, 合いますけどね, 日本のご飯でも (ふーん)。
でも (はい), あっちのご飯で食べたほうが, おいしいです。
- T: あっちのほうがおいしい？
- I: はい。
- T: えー, 結構, 【I】くんは, あの, ブラジルは, ずっと好きでしたか？

X005

そのブラジルの文化っていうものは、こう、小さいときから。

I : うーん、最初は、なんで自分が日本人じゃないかってずっと思ってた、学校のほうでもいじめられたりとか。

だから、小学校5年生までは嫌いでしたね〈はい〉。

自分がブラジル人だっていうことも〈はい〉、ポルトガル語を話せることも〈はい〉、ブラジルの文化のことも〈ええ、ええ〉。

でも、そこから、そこから、小学校5年生から〈はい〉、ポルトガル語をこの学校で習い始めまして〈はい〉、自分には言葉が2つあるんだっていう、人より優れてるのかな〈あー〉っていう思いがあって、そこから好きになりましたね。

T : ふーん。

そうすと、それを受け入れられるようになったっていうのかな、それをその…

I : そうですね。

T : うまく思った、いや、一番大きな、なんか具体的な出来事とかはありましたか？

I : うん、ここの学園長に言われた言葉なんですけど〈はい〉、君たちはほかの人たちより優れてるんだ〈うん〉みたいなことを言われて、そこでやっと感じましたね。

T : ふーん。

え、そこで、その、ブラジルってものを自分が受け入れたっていうことと、えー、日本に対しての気持ちは、そこで変わりましたか？

I : {プレス}、うーん、そこは特には変わってないですかね。

T : 日本に対する気持ちっていうのは、どう、どういうものなんですか、【I】くんの中では？

I : 僕の中では、一生暮らしていきたいという感じもありますし〈うーん〉、あとは、うーん、ちょっと難しいですね。

うん。

T : そういう、その子どものアイデンティティの揺れに対して、こういう、この、学校でできることと〈はい〉、それから、ま、もっと上の、国レベルでできることって、いろいろあると思うんですけども、国、もしも教育関係の大臣とまでは行かないけど、偉い人だったらどうします、【I】くんが〈はい〉？

そうしたら、どういうことを、どういう政策をやりたいですか？

I : うーん、まず、教育方針を変えたいと思いますね〈はい〉。

ちょっと、ゆとり教育はあんまり良くないと〈はい {笑}〉思います〈はい〉。

あの…

T : 日本のゆとり教育は良くない。

それは、どうしてですか？

I : えー、今までやってきたことを、や、いきなりやめて〈はい〉、で、それで子どもが馬鹿になってるから、そういうのをいってたんで〈ふーん〉、僕は、そこらへんはちょっと許せないですね。

T : ふーん。

ま、そういう意味ではなくて、例えば【I】くんみたいな、いろんな違うものを持った子どもたちが〈はい〉、より自信を持って、いき、生きていけるような教育は、日本の中で〈はい〉できていくためには、どんなことが必要なんでしょう？

I : やっぱ共存できるように、その、ブラジル人の人は、あんまり日本語を知らないんで〈はい〉、ここらへんにいる、まずこういった学校をどんどん作って〈はい〉、で、その中にも日本語を取り組むという教育〈はい〉。

ポルトガル語を勉強しながら、日本語も勉強できて〈ふーん〉、で、そ、ほかにも英語とかも取り入れていきたいですね。

いろいろな言葉を…

T : うん。

ただ、この学校は日本人から、こう、その、ブラジルの、そのルーツを持つ子を引き離して、教育をしますよね。

それはどうなんでしょう、いいんでしょうか？

I : それ、うーん、そこも良くないとは思いますがね。

T : あ、そうですか。

X005

- I : はい。
- T : ただ、その中に自信のよ、その中で自信をつけてきたんですね、【I】くんは？。
- I : うーん、そうですね。
でも、うーん、わたしは、たぶん、昼間は小学校、普通の小学校に行っていて、で、終わってからこちらに来てたんです（はい）。
だから、昼間から、その、うーん、難しいな、うーん、、、、なんて説明すれば、いいんですか、{ブレス}うーん。
僕は、そういう、一日中ここにいたんじゃないかって（はい）、日本人とも触れ合ったり（うーん）、そのあとにポル、ブラジルのポルトガル語を勉強したり（はい）したんですけど（はい）、この人は朝からいるんで（はい）、ちょっと、もっと触れ合ってほしいなと思いますね。
- T : あ、そういう…
- I : ほかの人、日本人の（うん）人、かたと。
そういうのもっと、りり、取り入れたいですね。
- T : はい、わかりました。
えっと、じゃ、1つロールプレイをやっていただきたい、ロールプレイって、わかりますか？。
- I : はい。
- T : あ、やったことありますか、はい。
じゃ、えっと、【I】くんは、あの、大学で新聞を作っています（はい）。
それで、えーと、ブラジル大使館の偉い人に、ちょっと、えー、今度、記念誌を作るので、なんか、インタビューに行くので、それ、お願いの、えー、電話をしてみてください。
わたし、ブラジル大使館のえらい人。
インタビューをするので、そのお願いの電話をしてみてください。
- I : あ、はい。
- T : いいですか？。
- I : ちょっと恥ずかしいですけど。
- T : はい。
はい、ブラジル大使館でございます。
- I : あ、もしもし。
- T : はい。
- I : こちら【学校名】大学の【I】と申しますが（はい）、あの、今度、記念誌を作るんで（はい）、そちらの大臣の方とは、インタビューできないでしょうか。
- T : はい、えーと、どのような内容をお考えでしょうか？。
- I : えっと、うーん、日本とブラジルの両立についてのことですけど。
- T : あ、そうでございますか。
えーと、どのくらいお時間をお考えでしょうか？。
- I : えーと、1時間ぐらいお願いできますか？。
- T : はい、えーと、とく、あの、日程的にはいかがでしょうか？。
- I : うーん、来週の日曜日とか大丈夫ですか？。
- T : あ、そういう、あの、直近のご予定では、ちょっと、お受けいたしかねますけれども。
- I : はい、いつ、あいてますか？。
- T : えーと、そうでございますね、あの、少し、1か月、2か月ぐらいの余裕をみていただけると、あの、こちらのほうも助かりますが。
- I : あ、じゃ、来月のほうでお願いします。
- T : はい、えーと、そうですね、じゃ、来月の、今のところ、20日の午後、こちらにおいでいただければ、あの、たぶん、その時間、30分ぐらいでしたらお空けできますが。
- I : あ、じゃ、そちらでお願いします。
- T : はい、えっと、もう一度お名前お願いいたします。
- I : あの、【学校名】大学の【I】と申します。
- T : はい。
えー、では【学校名】大学の【I】さま、20日の、えー、午後2時でお願いいたします。

X005

- I : はい。
- T : はい, じゃ, 失礼いたします。
- I : 失礼します, 失礼します。
- T : はい, ありがとう。
- I : じゃ, 今のを, 仲間に, ちょっと, 報告してみてください。
一緒のしんぶ, あの, 新聞, 広報の仲間です。
ねー, 今日電話したんだよね。
どうだった？。
- I : えっと, 来月の20日に決まりました。
- T : あ, 決まったの？。
- I : はい。
- T : えー, なかを, それで, すぐ受けてくれた？。
- I : え, すぐ、、、。
- T : インタビュー, すぐオッケーだった？。
- I : いや, 駄目だった。
- T : え, 駄目だったの？。
20日なんでしょ？。
- I : はい。
- T : 20日の？。
- I : 20日の午後2時。
- T : あ, 午後2時, いいんだ。
- I : はい。
- T : はい。
誰が行く？。
【I】, 行くよね？。
- I : 行きます。
- T : あと何人ぐらいいる？。
- I : あと, 5人ぐらい必要です。
- T : 5人ぐらいで行く。
オッケー, じゃ, しょうよう。
はい, じゃ, ありがとうございました {笑}。
- I : どういたしまして。
- T : ロールプレイ, ロールプレイはどこでやったんですか？。
授業の中？。
- I : 授業の中で。
でも, 小学校のころでしたね。
- T : あ, そうなんですか。
- I : はい {笑}。
- T : はい, わかりました。
えー, 今日はこれからは？。
もう終わりですか？。
おうちに帰る？。
まだ, なんか, アルバイト？。
- I : これからは, いや, うちに帰って, ちょっと, 大学の課題があるんで, そちらを…
- T : お, もう始まる前に。
- I : はい。
- T : お疲れ様です。
- I : もう課題が。
- T : はい。
じゃ, そういう忙しいときに, どうも, いろいろとありがとうございました。

X005

I : あ, いえ。

T : 今日は, じゃ, ここまでにします。

I : はい, ありがとうございます。

T : お疲れさまでした。